

みつくら

令和 2年 5月15日 第314号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

利用者が多い運動公園のトイレがリニューアル

平成4年に整備された大瀬川運動公園のトイレが去年の11月中旬に大便器が詰まりそのまま冬季閉鎖になった。その後再開に向けて3月に工事が始まると、詰まりの原因はなんと桜の根が配管の間隙から侵入して長さ約50cm、幅約5cmの網状になっていた。改修工事後は大便器は洋式に替り、小便器の位置は以前は外が見える状態だったがドアが設置され、窓もアクリル板で塞がれ雨風が入らない様になり4月1日から使用されている。このトイレは振興センター駐車場と県のチェーン脱着所に近い為に利用者が多い。実際に利用者から話を聞いた事があるが、ここは丁度良い位置にあり非常に助かっていると話していた。今秋に開業が予定されている「道の駅はなまき西南」までは18キロ、時間も25分掛かる。利用者誰もが奇麗な使用を心がけたいものだ。

「ブルリの杜」で7名を迎えて入所式

ブルリの杜（熊谷和彦・熊本葉一両代表理事）では、開所2年目を迎えた4月1日に新たに7名を迎えて入所式を行った。新型コロナウイルスの感染防止対策として式の規模を縮小し、来賓は呼ばずに入所者本人と家族、そして職員と現在通所している人だけの開催となった。施設では「生活介護事業所として知的障害や自閉症の発達支援をする為に、どうしても濃厚接触をすることもあるので、現在非常に神経を使っている。消毒液は何とか確保しているが、特にマスクはなかなか入手がしづらく、なるべく自前でしてくる様をお願いしている」と話していた。新型コロナが収束後は、また地区民との交流の機会を計画したいとも話していた。

NHKテレビに菅原洋美さんが出演

旦乃花家の菅原洋美さん（俳優）は、4月11日のNHKBSプレミアムの『柳生一族の陰謀』に吉田鋼太郎さんや斉藤由貴さん達と覆面姿で出演した。時代劇にあって柔らかい身のこなしの菅原洋美さんの演技は、体操選手だった高校時代を彷彿とさせるものだった。

異常事態のなかでも124回目の戦没者慰霊祭

4月3日に第124回大瀬川地区戦没者慰霊祭（藤原利博実行委員長）が3年ぶりに慰霊碑前で行われた。今回は新型コロナウイルス感染防止の為に来賓も無く、大瀬川神楽の奉納も中止し、20名が参列した。全員がマスクを着用し、熊野神社の菊池宏宮司のもと厳かに祭祀が執り行われた。日清戦争・日露戦争・その後の太平洋戦争で凶らずも戦地で亡くなられた54名の氏名が読みあげられ、玉串奉奠は実行委員長のみとし、直会も中止した。最後に菊池宏宮司から「この地区は嘗々と124回も続けて慰霊している。これは英霊になられた方々にも皆さまの慰霊の心は届いている。平和の大切さを心して伝えてほしい」と話された。去年は雪で清掃も延期になったが、今年は朝陽が射す晴天の下、朝6時から25名で慰霊碑の周りを清掃している。これより前の3月7日、九区自治公民館で今年の慰霊祭を開催するかどうかの実行委員会が開かれ、過去最高の出席者で慎重に審議された。審議の結果、慰霊祭は実施する、しかし感染防止の為に神楽と直会も中止することとし、雨天でもテントを慰霊碑前に設置して行うことに決めた経緯がある。

歴史探訪講座でスペイン風邪を語り合う

昨年11月22日に中国武漢市で初めて新型コロナウイルス肺炎が発生してから、瞬く間に全世界に広がり、我が国でも今年1月16日に初の感染者が確認された。4月3日には感染者数773人、死者23人になるなど、国を挙げて対策に躍起となった。それに先だって花巻市でも、3月2日から市が管理する施設の利用も禁止し、集会の自粛が始まったのは当紙4月15日号の通りである。丁度100年前に、世界で5千万人とも1億人とも言われる死者を出したスペイン風邪とこの感染症が類似していることもあって、急遽4月6日に「区長記録に残るスペイン風邪」のテーマで大瀬川歴史探訪講座を規模を縮小して消防会館で開催し語り合った。そのため常連にしか案内しなかったが、当日は13人が参加した。現在では研究によって、スペインかぜはH1N1型インフルエンザウイルスが原因とほぼ特定されているにもかかわらず、他のインフルエンザ流行とは異なる特徴がいくつか見られ、コロナウイルスとスペイン風邪のウイルスは、その感染度が非常に高く、類似性が指摘されているようだ。大正10年に書かれた大瀬川区長引継書の大正10年6月には2年分の大瀬川の出来事が書かれていて、その中に熊谷春松（田屋竜家、熊谷藤五郎さん方）区長が「大正8、9年ハ半年作以上ノ豊作ナルモ悪性ノ流行性感冒大流行ニテ老若男女ノ死者多カリキ 就中（なかんずく）若者ニアリタリ」と記述があった。つまり、若い方が多く死亡したとある。この時の区長代理者は菅原馬太郎（旧桃ノ木家・7区）さんで、引き受けた区長は板垣燦司（長助家）さんと記録されている。参加者は「悪性の流行性感冒大流行にて老若男女の死者多かりき」とあるが、「大瀬川では何人が死んだのか」を語り合っ

た。「多い」とあるからには2年間なのだから1人や2人でなく10人以上ではなかったか」と感想を述べ合った。講座を開いた翌日の4月7日には、政府が「緊急事態宣言」を発令し、花巻市でも当初4月末までの集会自粛要請が、4月26日付けで無期限に延長され、目先が不透明のまままごごしている。

子供達へマスクを贈る

新型コロナウイルス感染が騒がれ始めた頃、熊谷美幸さん（9区 牛蒡家）は子供を石鳥谷保育園に送っていた時、子供達が大人用の大きいマスクを付けているのに気づき、園長先生に相談して園児全員の（76人分）マスクを手作りして石鳥谷保育園に寄付した。このマスクは、さらし生地を使って子供でも楽に着けられるよう立体的なマスクに作製し、洗っても使用できる。また、耳に掛ける紐を長くすれば大人も利用できるようになっている。5月4日現在、政府では6日までの全国緊急事態宣言を5月末日まで延期を発表したが、唯一岩手県では、まだ新型コロナウイルス感染者が発表されていない。お互いに、感染するのではなく、自分から感染させないよう心がけたい。

人 事（敬称略）

大瀬川活性化会議 監事 板垣 勇悦

尾平で畑地が焼ける

4月12日午前10時50分頃、畑の枯草を焼却中に隣地の牧草畑に燃え移り、約14aを焼失する原野火災があった。当日は生憎の乾燥注意報が発令中とあって、瞬く間に燃え移ったもの。新聞には出火元が報じられていたが、新聞社に当編集委員が問い合わせたところ、「出火」の意味は火を付けた場所ではなく、焼く目的の場所ではなかったがその目的外の場所に延焼した所を指すという事であり、用語の解釈も難しいものと感じた。大瀬川の連続無火災記録は1261日（3年半）で停止となり、平成28年1月以来続いた連続無火災が残念ながら4月12日で切れた。地区内の事なので詳しく記載したい。まずは場所だが、大瀬川8地割で通称温平とって近くに「大瀬川自生花菖蒲園」がある。火災の発端は、昨年熊が出没したため収穫出来ず、畑が「茅」に覆われていたのを集め、焼却中に隣地の牧草地に燃え広がってしまった。一応水は用意していたが、牧草地は新芽が出て青く見えていたものの、下にある枯れた部分を火が這うように広がっていった。当事者が通報時に場所説明に手間取っている間に燃え広がった。駆けつけた消防隊員達も近くには水がないため、タンク車が来るまでスコップや足などで消火に当たった。もう少し遅ければ林まで延びて大火災になったと思われる。春の野焼きは風がないと思っても、今回のように下草から火が走って行くのでくれぐれも注意して頂きたいと消防署からあった。

みつくら

令和 2年 5月15日 第314号
 発行 大瀬川活性化会議
 編集 「みつくら」編集委員会
 花巻市石鳥谷町大瀬川10-45-2
 大瀬川振興センター 電話45-6472

“お〜い!集まろう!創ろう!みんなの大瀬川!”

新型コロナウイルス感染症対策による書面議決関連

○葛丸の農村環境を守る会
 葛丸の農村環境を守る会の総会も、5月10日付けの書面議決で行われた。国や県、市から併せて2884万円の交付金で7区、8区、15区内の活動区域で水路の更新、農業施設の修理、水路の泥上げ、畦畔等の草刈り、農道の砂利敷、環境保全活動などが行われ、2議案とも原案通り可決された。板垣幸夫会長は文面の挨拶で「今回の総会は、私達が経験したことのない国難とも言える未知の新型コロナウイルス感染症が全国に蔓延し、3月に花巻市から農地・水・環境保全組織に対し、コロナウイルス対策で総会は書面議決によって行う旨の指示がなされました。これに伴い、当会としても、令和2年度の総会は書面議決の方法によって行う事になりました。運営委員の皆様におかれましては、このような事情をご理解いただきますようお願い申し上げます」と書かれていた。同会では、今年度も6月1日から畦畔一斉草刈りを計画しており、荒廃農地が出ないよう活動を目指している。

○大瀬川第一老人クラブ
 4月中旬に書面議決書と総会資料を会員87名に配布。事業報告では、研修旅行や西部地区軽スポーツ大会への参加。そして、くずまる大学への参加では当老人クラブ会員の参加のべ82名もあり、学習意欲の高さが伺えるとあった。また、冬期間恒例の軽スポーツ体力づくりが新型コロナウイルス感染症で途中で終了の報告となった。来年度の会費も正会員1、300円、準会員500円として予算額157,000円の案が出され、全会員より賛成の決議報告で承認された。

○第九区自主防災会
 9区自主防災会（世帯数58戸）は4月中旬に書面議決を行い、全戸に議案書を配布し取りまとめを行った。事業報告の中で、昨年秋に行った防災備品の購入等のアンケートを行った結果、要望が多かった毛布・段ボールベッド等は避難指定場所の振興センターで準備・充実を図るべきと考え、当自主防災会は一時避難所として簡易的な防寒用品を

役員会で協議し購入。所有物品表に6項目が追加の報告がされた。また、役員改選に伴い災害時緊急連絡体制簿を添付した。

!!今年の地区民運動会は中止!!

毎年6月中旬に行われる地区民運動会は、新型コロナウイルス感染症対策で町体協から地区で対応するとあったが、大瀬川体協は、開催するにあたっては理事会を開き、続いて代議員会議の後に地区での選手選考などの会議が必要になるため、現時点で会合が行えないことから、執行部で検討の結果やむを得ず【中止】の決断を行い地区内に回覧でお知らせを行った。

花北青雲高校生が千鳥苑に手作りマスクを寄贈

4月27日にケアハウス千鳥苑（仁昌寺智明苑長、入居者25名）を花北青雲高の後藤知恵教諭と生徒代表（部長・平賀真衣さんと副部長・小原結衣さん）が「手作りマスク」をもって訪れ、苑長立ち合いのもと手渡された。このマスクは生活研究同好会（会員35名）が作成したもの。模様も色とりどり一枚一枚に「マスクを使って体を守ってください。健康第一!」「おじいちゃん、おばあちゃんへ!マスクをコロナのよぼうのためにつくりました〜!使ってくださいばうれしいです。お体にお気をつけておすごしください」などの手書きの言葉が添えられていた。千鳥苑では早速5月5の端午の節句に入所者全員に配布した。マスク不足の中で届けられたマスクに苑の人達からは「大変ありがとうございます」との感謝の言葉があった。

今年も火の用心を呼びかける

平成9年・17年に大瀬川、片寄地区で発生した山林大火災は、多くの財産を消失した。三度目は絶対出さないことを目指して「大瀬川・片寄地区山火事予防協議会」が発足し、自治体や地域の関係団体が広報や看板設置などの予防活動を展開している。とりわけ本年は、4月23日から5月6日を活動強化期間と位置づけ、高井沢地区の山林入口において、通行車両へ山火事防止チラシの配布とタバコ火始末を確実にを行うよう、呼びかけ活動を実施し、当地区の消防団、分収造林組合、活性化会議のほか、消防署も加わり、日程を分担して行った。通行車両の多くは山菜採りや溪流釣りの方で、チラシを快く受け取り、「ごくろうさま」の労いを受ける場面もあり、活動が浸透していると感じられた。特に4〜5月は野外の火災が多く発生しており、悲惨な状況に陥らないためにも予防活動を継続していくことが大切である。

農作業事故に気をつけよう!!

例年に比べ寒さが続いている春ですが、農作業も一段と忙しくなり、農作業機械の点検や操作を確実にし農作業事故を防いで欲しい。近年、農作業機械の大型化に伴い作業機を装着したトラクターで公道走行の際には長さ4.7m・幅1.7m・最高速度15km以上の場合は大型特殊免許が必要となっている。また、公道においても、作業後の泥の清掃や交差点付近の草

刈り等を行って交通事故防止をお願いする。（安協大瀬川）

南野原水利調整組合が一斉泥上げ

南野原石鳥谷水利調整組合（板垣光善組合長、組合員約200名）と葛丸の農村環境を守る会共同の一斉泥上げは、4月19日に約100名が出役して行われた。この泥上げは隔年毎に実施していて例年は、第2配水槽に全員が集合してセレモニーのあと各配水槽毎に分かれて泥上げをしていたが、今年は、新型コロナウイルス感染症対策のため、1〜4号配水槽毎に集まって密集化を避けて行った。第1配水槽で板垣組合長は30人を前に「コロナウイルス感染症の影響で、各配水槽毎に分散しての泥上げとなりましたが、水路が荒れていまずので丁寧な泥上げをお願いします」と挨拶された。続いて、葛丸の農村環境を守る会を代表して菅原教雄さんから「昨年度と今年度2ヶ年で大瀬川地区基盤整備の測量を実施しています。2〜3年後には、基盤整備に対する本同意とりまとめの予定ですので、未相続の方があれば時間がかかりますので、今年中に相続手続きを終えていただきますようお願いいたします」と挨拶があった。今回の泥上げでは、用排水路に柳が生えて荒れているところもあり、根元からの木切りした水路もあってありがたいなと思った。

訃報

天神林家の畠山勲さんは、3月20日に84歳で亡くなりました。畠山さんは、中学校の教員をしていて、二枚橋にお住まいの教員仲間から「畠山さんは主に、稗貫と紫波管内で担当教科は理科と体育でした。また、どこの中学校でも陸上部の部活教師として熱心でした」と話しておられました。畠山さんで思い出すのは、退職して間もない頃に花巻図書館の資料室（現在は入室禁止ですが、当時は中に入って資料棚で探せた）でお会いした時、手にしていたのは「岩手県教育史（明治編）」でした。二人きりでしたので、そこで初めて「教えることの難しさ」をお聞きしましたが、退職後もその熱心さに敬ったものでした。その後も石鳥谷図書館の常連でもありました。奥様の畠山マツエさんは、25年前に先立たれていますが、昭和50年1月号の「広報いしどりや」に「米と健康を語る集いが開かれ、その中の関連行事、愛妻弁当コンクールでアイデア賞畠山マツエさん」が掲載されています。その愛妻弁当を噛みしめながら生徒を導いていたのでしょう。大瀬川歴史探訪講座に姿が見えなくなったのも、体調が優れなかったからと初めて知りました。石鳥谷賢治の会幹事、大瀬川たろし滝測定保存会監事、第9区自治公民館長など地区に多くの貢献をされました畠山さんに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

訂正

4月15日号の人事で、石鳥谷中学校大瀬川地区委員菅原康文さんは高橋和佳子さんの誤りでした。